
佐賀県西部広域環境組合
一般廃棄物処理施設
包括の運転管理等委託業務
審査講評

平成27年6月

佐賀県西部広域環境組合

佐賀県西部広域環境組合一般廃棄物処理施設
包括の運転管理等委託事業者選定委員会

佐賀県西部広域環境組合 一般廃棄物処理施設包括的運転管理等委託 事業者選定委員会は、平成 27 年 3 月 4 日に公告した「佐賀県西部広域環境組合一般廃棄物処理施設包括的運転管理等委託業務」の公募型プロポーザル方式による事業者提案について、技術提案書及び価格提案書の内容について定量化審査により総合的に審査を行ったので、審査の評価結果を審査講評として公表する。

平成 27 年 6 月

佐賀県西部広域環境組合
一般廃棄物処理施設包括的運転管理等
委託事業者選定委員会

佐賀県西部広域環境組合 一般廃棄物処理施設
包括的運転管理等委託業務 審査講評
目 次

1. 事業概要	4
(1) 事業名称	4
(2) 事業の目的	4
(3) 施設の概要及び規模	4
2. 審査方法等	5
(1) 事業者選定方式	5
(2) 選定委員会の設置	5
(3) 事業者選定スケジュール	5
(4) 事業者選定の手順	6
3. 最優秀提案者の選定結果	11
(1) 資格審査	11
(2) 基礎審査	11
(3) 事業提案書に関するヒアリング及び非価格要素審査	11
(4) 提案価格の定量化審査	13
(5) 総合評価	13
(6) 最優秀提案者の選定	13
4. 総評	14

1. 事業概要

(1) 事業名称

佐賀県西部広域環境組合 一般廃棄物処理施設 包括的運転管理等委託業務

(2) 事業の目的

本事業は、組合の構成市町から搬入される一般廃棄物を本施設において適正（安全かつ安定的、衛生的、経済的）に処理するとともに、民間の創意工夫による提案を取り入れた良質な運転管理等と経費の効率化を図るため、本施設の運転管理等に係る業務を包括的に委託するものである。

(3) 施設の概要及び規模

本施設の概要及び規模は以下のとおりである。

項目	概要
施設名称	佐賀県西部広域環境組合一般廃棄物処理施設
所在地	佐賀県伊万里市松浦町山形地内
敷地面積	約 3.18ha（事業面積 約 16.7ha）
供用開始	平成 28 年 1 月
エネルギー回収推進施設（溶融施設）	処理方式 : ガス化溶融方式（シャフト炉式） 施設規模 : 205 t / 日（102.5 t / 日 × 2 炉） 計画処理量 : 52,120 t / 年（平成 28 年度） 処理対象物 : 可燃ごみ、粗大ごみ処理施設残渣 公害防止基準（O ₂ 12%換算値） ばいじん : 0.01 g/m ³ N 以下 硫黄酸化物 : 50 ppm 以下 塩化水素 : 50 ppm 以下 窒素酸化物 : 100 ppm 以下 ダイオキシン類 : 0.1 ng-TEQ/m ³ N 以下 発電能力 : 3,900kw（定格）
マテリアルリサイクル推進施設（粗大ごみ処理施設）	処理方式 : 破碎、選別 施設規模 : 22 t / 日（5 時間運転） 計画処理量 : 3,889 t / 年（平成 28 年度） 処理対象物 : 粗大ごみ、不燃ごみ
管理棟	構造 : RC 造 階数 : 地上 2 階 建築面積 : 827.86 m ² 延床面積 : 1,430.01 m ²
計量棟	形式 : IC カード式 数量 : 3 台（搬入用 2 台、搬出用 1 台） 秤量 : 30t（最小表示 : 10kg）

2. 審査方法等

(1) 事業者選定方式

事業者の選定に関して、民間による効率的・効果的な搬入管理、運転管理、用役管理、環境管理、資源化促進、余熱利用、情報管理等の提案を広く受け、また、地域の廃棄物処理に係る独創的、積極的な事業の創設を目指すことを目的として、高度な技術力や専門性、創造企画及び地域活性化・地元活用の面から事業者の企画提案を、一定の基準で評価・選定する公募型プロポーザル方式により本件事業の優先交渉権者を選定した。

(2) 選定委員会の設置

本件事業の優先交渉権者選定にあたり、公正・公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、一般廃棄物処理施設包括的運転管理等委託 事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）を設置する。選定委員会は、構成市町より 1 名及び学識経験者 1 名の委員で構成された。

(3) 事業者選定スケジュール

事業者選定は表 1 に示す日程で実施した。

表 1 事業者選定の経過

日 付	内 容
平成 27 年 2 月 26 日（木）	第 1 回選定委員会（募集要綱等募集関係書類の審議）
平成 27 年 3 月 4 日（水）	事業者募集要綱等の公表
平成 27 年 3 月 4 日（水）～3 月 10 日（火）	事業者募集要綱等に関する質問の受付
平成 27 年 3 月 16 日（月）	事業者募集要綱等に関する質問の回答
平成 27 年 3 月 17 日（火）～3 月 23 日（月）	参加資格申請書類の受付
平成 27 年 3 月 25 日（水）	資格審査結果の通知
平成 27 年 4 月 13 日（月）～4 月 17 日（金）	価格提案書、技術提案書の受付
平成 27 年 5 月 8 日（金）	第 2 回選定委員会（技術提案書に関するヒアリング、総合評価、最優秀提案者の選定）
平成 27 年 6 月 25 日（木）	優先交渉権者の決定及び審査講評

(4) 事業者選定の手順

全体フロー

事業者の選定は、優先交渉権者決定基準に従い、図1のスキームで実施した。選定委員会は、最優秀提案者の選定までを実施した。

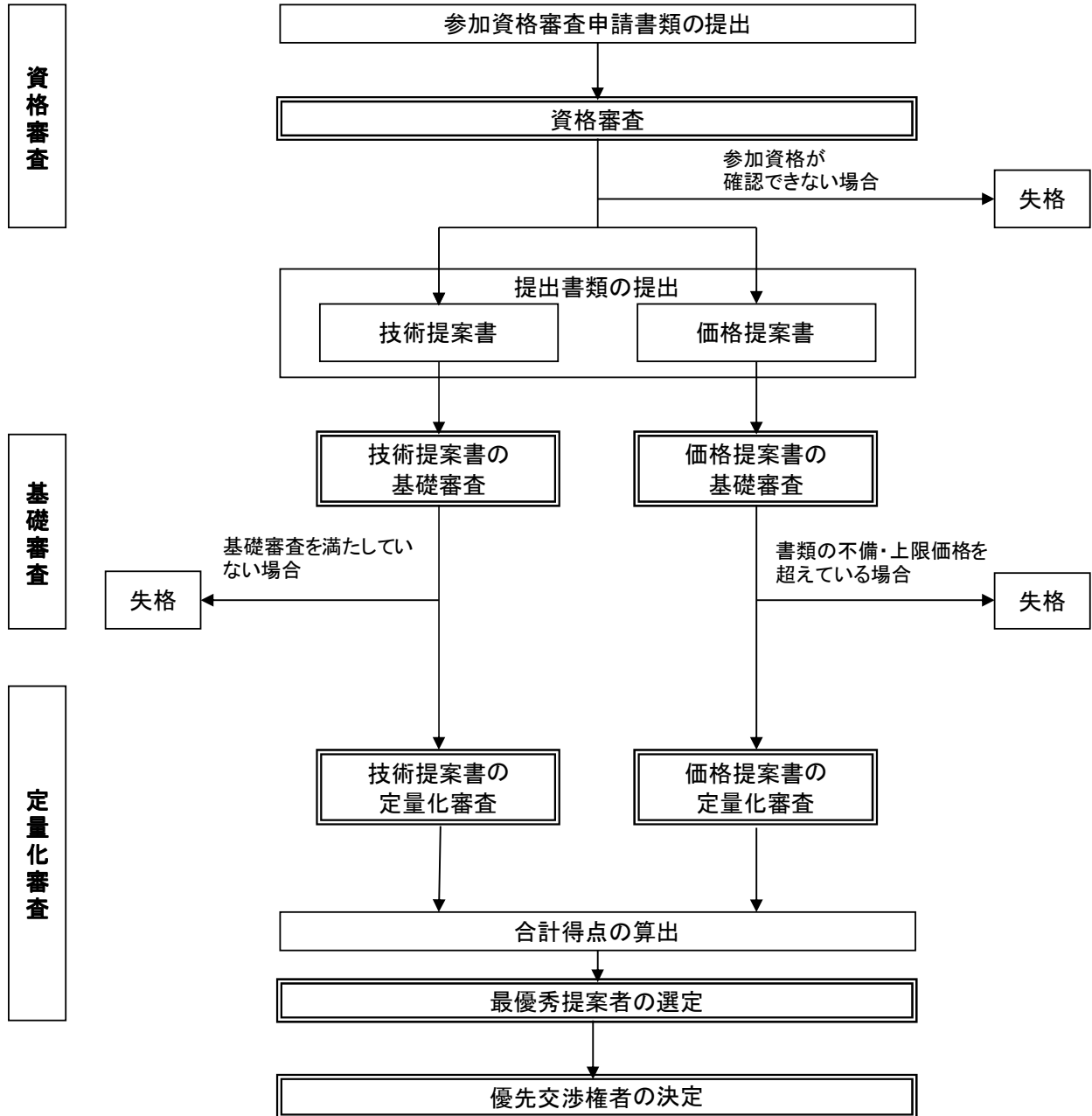


図1 優先交渉権者決定の手順

資格審査

参加表明書及び参加資格確認申請書等の提出書類により、事業者募集要綱に記載の応募者の備えるべき参加資格要件を満たしていることを確認した。

基礎審査

提案書類に記載された内容が、次の基礎審査項目を満たしていることを確認した。

- ・ 提出された提案書類がすべて揃っていること。
- ・ 事業者募集要綱及び様式集に示す価格提案書の作成に関する条件について違反のないこと。
- ・ 技術提案書の内容が要求水準書に示す要求水準を満たしていること。
- ・ 事業者募集要綱及び様式集に示す技術提案書の作成に関する条件について違反のないこと。
- ・ 技術提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。

定量化審査

技術提案書及び価格提案書の定量化審査を行うにあたって、技術提案審査点及び価格提案審査点の配点は次のとおりとした。

表 2 定量化審査における配点

項 目	配 点
技術提案に関する事項	60 点
価格提案に関する事項	40 点

① 技術提案に関する定量化審査

技術提案書の提案内容については、選定委員会において、表 3 に示す審査項目ごとに審査し得点化した。各項目の配点については、組合が民間の創意工夫の導出を期待する度合いにより設定した。したがって、審査項目は、組合が各応募者の過去の経験等を踏まえた創意工夫を期待している事項であり、配点はその重要度を表したものである。

表3 事業提案書の審査における審査項目、配点

項目		配点	審査する点	
本件事業の取組みに対する理念 (コンセプト)		4	・本件事業の取組みにあたってのコンセプトが明確かつ適切か。	
同種業務の実績		10	ごみ焼却施設及び破碎選別施設の運転管理等の実績(但し元請として)を評価する。(シャフト式ガス化溶融炉の実績を優位に評価する。)	
			処理能力1基あたり50t/日以上のシャフト式ガス化溶融炉の実績2件以上、破碎選別施設の実績2件以上	配点×100%
			シャフト式ガス化溶融炉1件を含む、処理能力1基あたり50t/日以上のごみ溶融施設の実績2件以上、破碎選別施設の実績2件以上	配点×75%
			ごみ溶融施設(処理能力1基あたり50t/日未満のシャフト式ガス化溶融炉を含む)の実績2件以上、破碎選別施設の実績2件以上	配点×50%
			ごみ焼却施設、破碎選別施設とも、実績2件以上	配点×25%
			ごみ焼却施設、破碎選別施設とも、実績1件	配点×0%
運転管理等業務に関する事項				
運転管理体制	全体及び施設別組織構成と有資格者の確保及び配置	8	・全体組織計画について、十分な人員が配置されているか。 ・有資格者が確保され、適切に配置されているか。 ・十分な経験を有する技術管理者が適切に配置されているか(経験年数、実績等を技術提案書に示すこと)。	
	運転準備期間中の体制		・運転準備期間中、十分な人員が配置されているか。 ・運転準備期間中の従業員教育体制が確立されているか。	
	緊急対応マニュアル		・緊急対応マニュアルはあらゆる事態が想定され、それらの事象が発生した際にも適切な対応が行える内容となっているか。	
	従業員教育		・運転期間中の従業員教育体制が確立され、効果的な従業員教育が計画されているか。	
受入管理	受入管理	4	・一般持込者に対し計量、誘導が適切に行える提案がされているか。 ・処理不適物等の確認や事前除去が適切に行える提案か。	
運転管理	施設全体	10	・エネルギー回収推進施設、マテリアルリサイクル推進施設の連携に配慮した運転管理が提案されているか。 ・資源化物の品質確保、資源化率向上のための工夫が提案されているか。また、売却先の提案等が妥当か。	
	エネルギー回収推進施設		・ごみ質、ごみ量変動への対応策が十分検討され、適切な提案がされているか。当初計画に対して、搬入量が減少した場合、またはごみ質が変化した場合に、効果的な運転方法が提案されているか。 ・公害防止基準の遵守、ダイオキシン類の排出抑制に配慮した運転管理方法の提案がされているか。 ・停止基準及び要監視基準を超過した際、通常運転復帰までの仕組みとして、適確な提案がされているか。 ・効率的な発電の工夫、売電量の提案が行われているか。その提案が妥当か。	

項目		配点	審査する点
	マテリアルリサイクル推進施設		<ul style="list-style-type: none"> ・運転管理計画、運転管理マニュアルの作成について、適切な提案がされているか。 ・ごみ質、ごみ量変動への対応策が十分検討され、適切な提案がされているか。特に、当初計画に対して、搬入量が増えた場合(年末年始等の一時的な増加時期を含む)や減った場合に効果的な運転方法が提案されているか。 ・日常点検等の考え方や方法が適切か。
用役調達		4	<ul style="list-style-type: none"> ・用役の調達方針及び調達計画について、安定した用役の調達の提案がされているか。 ・自然災害などの緊急時に、適正に施設が稼働できるような用役調達計画となっているか。
環境管理	環境保全基準・計画	4	<ul style="list-style-type: none"> ・運転維持管理の効率性を確保しつつ、周辺環境への影響を最小限におさえる環境保全基準及び設定方針となっているか。 ・環境保全基準を実現することが可能な計画となっているか。 ・環境モニタリング方法が適切なものとなっているか。
	作業環境管理基準・計画		<ul style="list-style-type: none"> ・作業員の安全確保に十分配慮した作業環境管理基準及び設定方針となっているか。また、それらを実現することが可能な計画となっているか。 ・実際の運転を想定した作業環境管理計画の作成方法が提案されているか。
業務委託費		4	<ul style="list-style-type: none"> ・変動費単価・固定費の提案が妥当であるか。
リスク管理計画	リスク管理方針及び管理体制	4	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク顕在化確率の極小化、リスク顕在化時の影響の極小化を考慮したリスク管理体制として、的確な提案がされているか。 ・具体的で実効性の高いセルフモニタリングが提案されているか。
	保険の付保		<ul style="list-style-type: none"> ・リスク管理における保険の活用の考え方と本業務において付保する保険について、適確な提案がされているか。
地域への貢献	地域への貢献	8	<ul style="list-style-type: none"> ・地元雇用、地元企業との連携など、地域経済への貢献及び地域住民への配慮がされているか。 ・環境学習、環境保全に関する情報提供等について、有効な提案がされているか。

提案を求めている審査項目においては、表に示す 5 段階で得点を付与して、選定委員会の合議により審査を行った。

表 4 技術提案審査の得点化方法

評価	審査基準	得点化方法
A	非常に優れている	配点×1.00
B	AとCの間	配点×0.75
C	優れている	配点×0.50
D	CとEの間	配点×0.25
E	要求水準を満たす程度	配点×0.00

② 提案価格に関する定量化審査

提案価格については、事業提案書との整合性を確認した上で、表 5 に示す算定式により得点を付与した（少数第 3 位を四捨五入）。

表 5 価格審査点算定式

算定式【価格審査点得点算定式】
当該応募者の価格審査点 = 40 点 × (最低提案価格 / 当該提案価格)

③ 総合評価点の算定

「技術提案書に関する定量化審査」、「提案価格に関する定量化審査」により算出した各応募者の得点から、表 6 に示す算定式により、各応募者の総合評価点を算定した。

表 6 総合評価点の算定式

算定式【総合評価点の算定式】
当該応募者の総合評価点 = 当該応募者の非価格要素審査点 + 当該応募者の価格審査点

3. 最優秀提案者の選定結果

(1) 資格審査

平成27年3月4日に事業者募集要綱等の公表を行い、参加表明書及び資格審査申請書類を受け付けたところ、表7に示す2グループから申請があった。

資格審査にて当該グループの入札参加資格を確認し、平成26年3月25日に代表企業に対し、参加資格を有することを書面にて通知した。なお、選定委員会による技術提案書の審査にあたっては、審査の公平性を期すため、企業グループ名を伏せることとした。1グループは、グループ名を「クスノキ」、提案2グループはグループ名を「マキ」として識別して評価を行った。

表7 入札参加表明書及び入札参加資格審査申請書等提出グループ

グループ名	構成員	
	代表企業	構成員
クスノキ	株式会社日本管財環境サービス 九州支店	株式会社西日本メンテナンス
マキ	日鉄住金環境プラントソリューションズ 株式会社	一般社団法人佐賀西部施設 運営管理組合

(2) 基礎審査

平成27年4月17日に参加資格を有する2グループより技術提案書、価格提案書が提出された。

提出された技術提案書の内容が要求水準書に示す要求水準を満たしていること等を確認する目的で基礎審査を行った。審査の結果、技術提案書を提出した2グループは、組合が要求する水準を満足していること等が確認されたため、基礎審査に合格しているものと認められた。

選定委員会は、組合から基礎審査の経過及び結果の報告を受け、2応募者が基礎審査に合格していることを確認した。

(3) 事業提案書に関するヒアリング及び非価格要素審査

選定委員会は、技術提案書に関するヒアリングを平成27年5月8日に実施し、応募者から提案内容の説明や委員による質疑を行った。また、それらの内容を踏まえて、技術提案に関する事項の得点化を行った。

事業提案に関する得点結果は表8のとおりである。また、事業提案に関する事項の各審査項目についての講評は、表9のとおりである。

表 8 技術提案に関する得点結果

審査項目			配点	クスノキ		マキ	
大項目	中項目	小項目					
技術提案に関する事項	本件事業の取組みに対する理念(コンセプト)		4	C	2.00 点	C	2.00 点
	同種業務の実績		10	—	5.00 点	—	10.00 点
	運転管理等業務に関する事項	運転管理体制	8	C	4.00 点	B	6.00 点
		受入管理	4	C	2.00 点	C	2.00 点
		運転管理	10	B	7.50 点	B	7.50 点
		用役調達	4	C	2.00 点	B	3.00 点
		環境管理	4	C	2.00 点	C	2.00 点
		業務委託費	4	C	2.00 点	C	2.00 点
		リスク管理方法	4	C	2.00 点	C	2.00 点
地域への貢献		8	C	4.00 点	C	4.00 点	
合 計					32.50 点		40.50 点

表 9 選定委員会が評価した事項

運転管理体制	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー回収推進施設の配置人員として、クスノキグループ、マキグループとも、運転班は1班あたり4名、4班で提案されており、妥当な人員配置の提案が行われていた。 マキグループは、4班の各班長クラスに、本施設と同じコークスベッド式シャフト炉に3年以上の経験を有する従業員を配置する提案であることを評価した。 運転教育期間中の従業員の教育体制について、クスノキグループ、マキグループとも代表企業の他事業所での実地研修が提案されていた。 マキグループは、同種施設での経験者である4名の班長以外の副班長以下の従業員に対して代表企業の他の同種施設での実地研修を行う計画であり、本施設の運転管理実施に資する提案である点を評価した。
運転管理	<ul style="list-style-type: none"> 資源化物(溶融スラグ等)の利活用について、クスノキグループ、マキグループとも、地元での活用、販路開拓を提案した。 クスノキグループは、マテリアルリサイクル推進施設での不燃ごみ、粗大ごみを15種類に分別することで売却価格を高める工夫がされている点を評価した。一方で、一部資源化物の想定売却単価が市況に比べ相当高かった。 マキグループは、代表企業の関連会社での販路・販売実績に基づき、当該関連企業を通じての利活用を想定しており、資源化物の利活用に関して実効性が高い提案であることを評価した。 発電(売電)については、クスノキグループ、マキグループとも、高い水準での提案であった。 マキグループの提案では、特に代表企業の他の事業所での実績を踏まえ、想定されるバイオマス比率を勘案した、実効性の高い提案であることを評価した。
リスク管理計画	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対応について、クスノキ・マキグループとも他事業所からの人員の応援や部品・資材の提供が提案されていた。 マキグループは、九州内に存在する複数の同種施設からの応援や、本社(福岡県)からの部品・資材調達など、緊急時の対応に資する提案が行われていることを評価した。

(4) 提案価格の定量化審査

平成 27 年 4 月 17 日に応募者から提出された価格提案書は、5 月 8 日に開札し提案価格が上限価格を超えていないことが確認された。

選定委員会は、組合から確認結果の報告を受け 2 応募者が条件を満たしていることを確認し、提案価格の定量化審査を行った。その結果は、表 10 の通りである。

表 10 価格提案に関する得点結果

代表企業名 (審査時グループ名)	提案価格 (税抜き)	定量化点 (40 点満点)
株式会社日本管財環境サービス (クスノキ)	1, 470, 000, 000 円	40.00 点
日鉄住金環境プラントソリューションズ株式会社 (マキ)	1, 659, 671, 000 円	35.43 点

(5) 総合評価

選定委員会は、平成 27 年 5 月 8 日、「技術提案書に関する定量化得点」に「価格提案書に関する定量化得点」を加算して、総合評価を行った。総合評価の結果は、表 11 のとおりである。

表 11 総合評価点の算定結果

代表企業名 (審査時グループ名)	技術提案に関する 定量化得点	価格提案に関する 定量化得点	総合評価点	結果
株式会社日本管財環境 サービス (クスノキ)	32.50 点	40.00 点	72.50 点	第 2 位
日鉄住金環境プラント ソリューションズ株式会社 (マキ)	40.50 点	35.43 点	75.93 点	第 1 位

(6) 最優秀提案者の選定

選定委員会は、上記の結果に基づき「日鉄住金環境プラントソリューションズ株式会社グループ」を最優秀提案者として選定した。

4. 総評

本業務は、本件事業の実施に際し、民間による効率的・効果的な搬入管理、運転管理、用役管理、環境管理、資源化促進、余熱利用、情報管理等の提案を広く受け、また、地域の廃棄物処理に係る独自の、積極的な事業の創設を目指すことを目的として、高度な技術力や専門性、創造企画及び地域活性化・地元活用の面から民間事業者の活力を導入し、かつ安全・安心な本施設の運転管理等を実施することを目的としている。

今回、応募した2グループの提案は、いずれも本事業の目的や各業務の内容について組合が要求する水準を上回る提案内容であった。2グループにおいては、提案内容が多岐にわたることから、提案書の作成において多大な労力及び費用負担があったことが想定される。そうしたなかで提案をまとめた応募者の熱意に敬意を表するとともに、深く感謝する。

審査においては、技術提案書等及び価格提案に対して厳正なる審査を行った結果、日鉄住金環境プラントソリューションズ株式会社を代表企業とする「マキグループ」を最優秀提案者として選定するに至った。

マキグループの提案では、本施設と同種施設の運転管理実績や経験者の配置等、実効性が高いことが評価された。

選定委員会の審議において、上記の事項を評価する一方で、マキグループの提案内容に対して、以下に示す配慮・要望事項が挙げられた。

- ① エネルギー回収推進施設とマテリアルリサイクル推進施設の運転管理上の連携を一層図ること。
- ② 資源化物の売却に関して、熔融スラグやメタルの品質確保・成分分析を含め、可能な限り価値を高める努力を行い、組合の経費節減への協力を行うこと。
- ③ 売電に関しても、PPS等の活用により、より高い売却価格が得られるよう努めること。
- ④ 地元雇用、地元企業活用の拡大に努めること。
- ⑤ 地元の一員として、信頼の絆を築くよう積極的に協力すること。

マキグループには、上記の配慮・要望事項等について、事業者募集及び契約の公平性を妨げない範囲において本事業をより良いものとするために組合と十分な協議を行い、組合の良きパートナーとして、真摯な対応に努めて頂きたい。

平成27年6月

佐賀県西部広域環境組合
一般廃棄物処理施設包括的運転管理等委託
事業者選定委員会